

陸連時報 三

2014
平成26年

11

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

理事会報告	198
第2回ユースオリンピック競技大会(2014/南京)報告(強化副委員長・強化育成部長 山崎一彦)	199
第22回日・韓・中ジュニア交流競技会報告(陸上競技選手団監督 村田勇)	202
強化関連情報(強化委員会)	204
第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)競歩代表選手選考要項	
第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)トラック&フィールド種目代表選手選考方針	
2014-2015ナショナルリレーチームの編成について	
施設用器具委員会報告(14-1)(施設用器具委員会)	206
インターハイにおける科学委員会バイオメカニクス研究活動報告(科学委員会 柳谷登志雄)	208
マラソンメディスンセミナー2014報告(理事・医事委員長 山澤文裕)	210
大会観戦ガイド	211
陸協NEWS	212
事務局からのお知らせ	214

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

理事会報告

第23回理事会

日時：2014年9月18日（木） 14時00分～15時50分

場所：小田急第一生命ビル11階会議室

【議題】

〈協議事項〉

1. 2015年度主要競技会日程
2. 第17回アジア競技大会（2014／仁川）報奨金
3. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）競歩種目選考要項
4. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）トラック&フィールド種目選考方針
5. 2014-2015ナショナルリレーチームの編成

〈報告事項〉

1. 第17回アジア競技大会（2014／仁川）状況報告
2. その他

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数29名、出席者数22名（1名遅刻にて出席のため計23名出席となった）で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

〈協議事項〉

1. 2015年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。なお、2015年度の競技会日程について一部未定であるため、今回の理事会では国際競技会及び第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）の選考競技会のみを提案し、これが承認された。（表1）

2. 第17回アジア競技大会（2014／仁川）報奨金

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。なお、前回大会からの変更点は次の通り。

- ①専任コーチにも選手の50%相当を支給する。

- ②リレーは200万円をいずれかのラウンドに出場した全ての選手で按分する、専任コーチには当該選手の50%相当を支給する。

第17回アジア競技大会（2014／仁川）の報奨金について

- 報奨金
- 1) 選手
 - ①個人種目優勝者：100万円
 - ②リレー種目優勝者：200万円をいずれかのラウンドに出場した全ての選手で按分
 - 2) 専任コーチ
報奨金を受けた選手の50%に相当する金額。

3. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）競歩種目選考要項

原田理事・強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された（詳細は204ページ参照）。

4. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）トラック&フィールド種目選考方針

原田理事・強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された（詳細は204～205ページ参照）。

5. 2014-2015ナショナルリレーチームの編成

原田理事・強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された（詳細は205ページ参照）。

〈報告事項〉

1. 第17回アジア競技大会（2014／仁川）状況報告

原田理事・強化委員長より、大会直前の選手の状況等を報告した。

表1 2015年度主要競技会日程

月	国内競技大会			国際競技大会		
	日	競技会名	場所	日	競技会名	場所
4	19 (日)	日本選手権50km競歩	輪島 (石川)			
	18 (土)～19 (日)	織田記念陸上 (GP①)	広域公園 (広島)			
	25 (土)～26 (日)	日本選抜陸上和歌山 (GP②)	紀三井寺 (和歌山)			
	25 (土)～26 (日)	兵庫リレーカーニバル (GP③)	ユニバー記念 (兵庫)			
5	3 (日)	静岡国際陸上 (GP④)	エコパ (静岡)	2 (土)～3 (日)	ワールドリレーズ	ナッソー (バハマ)
	10 (日)	ゴールデングランプリ	未定			
6	26 (金)～28 (日)	日本陸上競技選手権	デンカビッグスワンスタジアム (新潟)	3 (水)～7 (日)	アジア陸上競技選手権	武漢 (中国)
7	4 (土)～5 (日)	日本陸上競技選手権混成	長野市営 (長野)	3 (金)～14 (火) (全大会期)	ユニバーシアード	光州 (韓国)
				12 (日)	日中韓3カ国交流陸上	厚別 (北海道)
				15 (水)～19 (日)	世界ユース陸上競技選手権	カリ (コロンビア)
8				22 (土)～30 (日)	世界陸上競技選手権	北京 (中国)

第2回ユースオリンピック競技大会(2014/南京)報告

強化副委員長・強化育成部長 山崎 一彦(第2回ユースオリンピック競技大会陸上競技監督)

大会期日:2014年8月16日(土)~8月28日(木)

大会開催地:中国・南京

表1 第2回ユースオリンピック競技大会(2014/南京)陸上競技日本代表選手団

役職	氏名	ヨミガナ	所属	日本陸連役職	
監督	山崎 一彦	ヤマザキ カズヒコ	順天堂大学	強化委員会 副委員長	強化育成部長
総務	塚田美和子	ツカダ ミワコ	岩手県教育委員会	強化委員会	強化育成部 競歩 委員
コーチ	小松 隆志	コマツ タカシ	高知県立高知農業高校	—	

【男子】種目	氏名	ヨミガナ	所属	登録陸協	生年月日
100m	大嶋 健太	オオシマ ケンタ	東京高校	東京	1997/9/3
200m	山下 潤	ヤマシタ ジュン	福島高校	福島	1997/8/23
110mH	金井 直	カナイ ナオ	川崎市立橋高校	神奈川	1997/6/4
走高跳	平松 祐司	ヒラマツ ユウジ	西城陽高校	京都	1997/1/11
円盤投	安藤 夢	アンドウ ユメ	東京高校	東京	1997/2/3
競歩	小野川 稔	オノガワ ミノル	東京実業高校	東京	1997/6/21

【女子】種目	氏名	ヨミガナ	所属	登録陸協	生年月日
200m	川村 知巳	カワムラ トモミ	盛岡第一高校	岩手	1997/7/24
800m	高橋 ひな	タカハシ ヒナ	西脇工業高校	兵庫	1998/4/5
3000m	高松 望 ムセンビ	タカマツ ノゾミ ムセンビ	大阪薫英女学院高校	大阪	1997/8/31
100mH	藤森 菜那	フジモリ ナナ	浜松市立高校	静岡	1997/5/21
棒高跳	諸田 実咲	モロタ ミサキ	太田女子高校	群馬	1998/10/6
やり投	森 凧紗	モリ ナギサ	名城大学附属高校	愛知	1997/2/5
競歩	松本 紗依	マツモト サヨリ	奈良育英高校	奈良	1997/1/13

(1) 好成績は高校現場の理解度向上

メダル獲得は金2つ、銀2つ、銅1つと前回大会の銀4つを大きく上回った。また、自己新記録の選手は13名中6名であり、ほぼ半分の選手が自己新記録ということになる。好成績の背景の第一には、ユース世代の上位選手を派遣してくれた高校指導者の理解者が増えたことが要因である。更には、全国高体連陸上競技専門部との協力でユースオリンピック日本代表選手は、全国高校総体県予選大会の免除が適用されたことで、現段階で考えられる好成績の競技者を派遣できたことである。関係者の方々には厚く御礼申し上げたい。

(2) 選手選考

ユースオリンピック・アジア地域予選のJOC(日本オリンピック委員会)派遣手続き4月の段階で終了しなければならなかった。そのため、今シーズンの戦績や記録を最大限考慮した選手選考が出来たとは言いがたく、昨年の競技成績で候補者をなるべく多く選定しながら今シーズンの成績を加味して選考した。結果論であるかもしれないが、冒頭の通り、関係者の理解も向上してユース世代のトップ競技者を選定することが出来た。

(3) ユースオリンピックの意義

ユースオリンピックは、スポーツ・文化・教育が一体となったイベントで文化・教育プログラム(CEP)は競技会と同様に重要な要素として位置づけられている。従って、スポーツを通じて友情や相互理解が表現できるようにし、様々な活動を通じてオリンピズムを理解していくことが目的となっている。そのため、ユースオリンピックの競技会形式は、その他の世界大会や日本の大会の形式と異なっているので説明しておきたい。基本的には勝ち上がりのノックダウン方式をとらず、勝ち負けは決定しても競技回数で優劣をつけないことが主旨のようだ。まず、予選でレーンありの種目は記録の良い上位8名をA決勝として予選9位から16位はB決勝と順次ラウンドが分かれる。レーンがないトラック種目およびフィールド種目は参加者を上位下位50%に分けて決勝ラウンドを行う。フィールド種目のバー種目以外は、予選ラウンドも決勝ラウンドも4試技で勝敗を決める形式だった。また男女競歩は1発決勝で、今回は「ピットルール」という新たな方式が採用された。3回の警告で5000mであれば1分間、10000mであれば2分間所定のピットに入り、待機しなければならない。ピットに入っ

てしまった選手は休めばいいのに落ち着かないようでピット内を右往左往していたのが印象的だった。このようにフィールド種目の4試技や競歩のルールは、国際陸連（IAAF）が新たなルールを模索することを念頭に置いたルールを導入した競技会となったようであった。

現在、国際陸連は、テレビ放映権獲得拡大に向けてどのように陸上競技を見せるかという課題に迫られている。その課題とは、競技時間の短縮化と質の向上である。特にフィールド種目は決勝6試技ではなくなる可能性も出てくることも念頭に置かなければならないだろう。

(4) 日本人選手の結果

結果は表2のとおりであった。

メダリストの内容としては、まず金メダルを獲得した男子10000m競歩の小野川稔選手（東京実業高校）は、レース前の力ではメダルに届か届かないかといった前評判であり、軽い故障もあったことで厳しい展開になるのではないかと予想された。しかしながら、その不安を一掃した歩きぶりで残り2人になってからの勝負強さが際立った。残り1000mでのスパート、更にもう一度スピードアップして気迫のレースを繰り広げて1着でゴール。次に女子3000mの高松望ムセンビ選手（大阪薫英女学院高校）は、レース中盤まで5、6人の集団で動きも軽い。ラスト600mで動きを切り替えてスパート。ラスト200mでは他者を大きく引き離し金メダルを手中にした。

7月末の世界ジュニア選手権では、ラストの勝負所でスピードの切り替えが出来ずにメダルを逃して4位だった。それらの反省を克服したレースとなった。

男子100mでは、大嶋健太選手（東京高校）が銀メダルであった。予選で良い走りをしたウイリアムス（オーストラリア）、チャンバース（ジャマイカ）、シアメ（ザンビア）とのメダル争いが予想された。チャンバースは予選ラウンドレース後半でハムストリングを痛め棄権。前半型のウイリアムスと後半型のシアメ、中盤の良い大嶋選手と三者三様の争い。大嶋選手はスタートで若干出遅れたことと得意の中盤の前に体が起きてしまって十分な加速が出来ていなかった。予選トップ通過のウイリアムスは終盤捉えたが、後半型のシアメに100分の1秒逆転されてしまい、非常に惜しい銀メダルだった。

2つ目の銀メダルを獲得した男子走高跳の平松祐司選手（西城陽高校）は、予選より更に集中力と落ち着いた立ち振る舞い。2.00mから2.14mまでは全て1回の跳躍でバーを上げた。ここまでは世界ジュニア選手権6位のリセンコ（ロシア）と同じ試技回数で残ったのは2名のみ。バーは2.14mに上がり、この高さに挑戦するのは、ジェームス（オーストラリア）、ブランコフ（ウクライナ）の4人に絞られた。ここでリセンコ以外は3回バーを落としてしまったため、リセンコの優勝と試技差で平松選手の銀メダルが自動的に決定した。今までの日本人選手はピットに入ってから普段取らない動きの目立つ選手が

表2 第2回ユースオリンピック競技大会（2014/南京）リザルト

■ 予選ラウンドはありません

男子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	日付	決勝
1	100m	大嶋 健太	東京高校	10.37	8月21日	10.62 (1/h1) -0.5m/s	8月23日	10.57 (final1) -0.5m/s 銀メダル
2	200m	山下 潤	福島高校	21.23	8月22日	21.11 (2/h1) -0.4m/s PB	8月24日	21.62 (final1) +0.3m/s 6位入賞
3	110mH (91.4cm)	金井 直	川崎市立橋高校	14.20 (106.7cm)	8月20日	14.03 (5/h3) +0.4m/s	8月23日	14.08 (2/final3) -0.6m/s
4	10000mW	小野川 稔	東京実業高校	46.08.83			8月24日	42.03.64 PB 金メダル
5	走高跳	平松 祐司	西城陽高校	2m19	8月20日	2m10 4位	8月23日	2m14 銀メダル
6	円盤投 (1.5kg)	安藤 夢	東京高校	53m50 (1.75kg)	8月20日	55m87 6位	8月23日	57m36 4位入賞 PB
女子	種目	氏名	所属先	自己ベスト	日付	予選	日付	決勝
1	200m	川村 知巳	盛岡第一高校	24.29	8月22日	25.10 (4/h3) 0.0m/s	8月24日	25.18 (final2) -0.4m/s
2	100mH (76.2cm)	藤森 菜那	浜松市立高校	13.56 (84.0cm)	8月20日	13.83 (4/h1) -0.7m/s	8月23日	DQ (final2)
3	800m	高橋 ひな	西脇工業高校	2.07.19	8月20日	2.09.59 (4/h3)	8月23日	2.09.96 8位入賞
4	3000m	高松 望ムセンビ	大阪薫英女学院高校	9.02.85	8月20日	9.08.01 4位	8月24日	9.01.58 金メダル PB
5	5000mW	松本 紗依	奈良育英高校	24.13.13			8月23日	23:54.71 4位入賞 PB
6	棒高跳	諸田 実咲	太田女子高校	3m80	8月20日	3m40 11位	8月23日	3m50 (3/final2)
7	やり投 (500g)	森 凧紗	名城大学附属高校	49m03 (600g)	8月22日	50m72 5位	8月25日	52m27 PB 銅メダル

多かったが、平松選手を見ているとそれらの考えが吹き飛んでいった。

日本勢5つ目のメダルを獲得した銅メダルの女子やり投の森風紗選手（名城大学附属高校）は、1投目で52m27の自己新記録で全体2番目の記録を投げて幸先の良いスタート。2投目から雨が降り始め3投目には雨が激しくなってきた。そのため、他選手は大きく記録を伸ばしてこない。3投目にドイツ選手が53m68を投げて全体3位になったが、4投目は森選手を上回る記録を出した選手はいなかったため、見事銅メダルを獲得した。森選手は当初アジア地域予選終了後には、予選通過の通知はなかった。成績上位者が辞退したための本戦出場であり、試合前ランキングも10位以下であった。試合に臨む必要最小限のウォーミングアップ、思い切りの良さなどジュニアレベルでのお手本となる様な行動であった。

(5) 雑感

アジア地域予選を勝ち抜いた選手たちは、すでに友人関係を形成しており、和やかな雰囲気ですユースオリンピックを迎えられたようだった。選手村もそれほど不便はなく、競技環境も通常の競技会よりも参加者が少ないため、混雑などで練習できないナーバスな場面も少なかった。ただ、滞在日数は19日と通常のオリンピックよりも長い期間となり、日本出国から8日後に競技会開始という少し間延びした緊張感であったように思う。その間にもう一つの大会趣旨であるCEPなどを行ったが、本当にオリビズムや友情を結ぶものであったかは疑問符が付けられるものもあった。そのため、強化委員会としての派遣というよりも普及育成委員会での派遣という主旨が強い場面もあり、大会の位置づけや意義などを再度検討し直す必要があると感じた。更にはIOC（国際オリンピック委員会）およびJOCにおいてもユースオリ

ンピックの位置づけについて極めて曖昧なところが見え隠れする。陸上競技種目においては、メダルテーブルは、シニア、ジュニアともに陸上強豪国であるアメリカ、イギリス、ドイツなどが日本よりも順位が低かったことが物語っている。このように国際大会が増えてきて各国陸連にとっても優先順位をつけて派遣している。

競技会では、参加者の中で不正スタートにより失格した選手がいた。しかしながら、日本の高校生中心の競技会では警告に終わるようなタイミングであり、本人もフライングの意識はなかったようだ。大会運営側に確認を取ると、リアクションタイムが0.098であったことやビデオの確認でも早く出ていた。日本もジュニア以下の段階でも国際基準に合わせて再度見直しが必要かもしれない。

全体的には13名の参加選手は、競技場での立ち振る舞い等は堂々としたものであった。

(6) 終わりに

何度も公言しているが、陸上競技のユース期では、中等高等学校での教育と同様に、陸上競技を通じてグローバルな視野を持ちながら、問題解決をしていく実行力が重要である。また中高校期のほぼ単年度勝負でありがちなトレーニング方法の向上や、専門スキルの向上を主とした目的にならないよう注視すべきである。また、ユース層では、現在の実行種目とは別の種目で国際競技力が更に向上できる可能性がある。すなわち種目トランスファーをすることによって、自身の競技到達順位が向上するかもしれない。指導者はそれらを念頭に置きながら競技指導をしていかなければならないだろう。

理想としては、学校教育だけでは教育できないルーティンワーク化された生活行動規範から外れた国際的な行動規範を身につけなくてはならない。東京オリンピックへ向けての育成が重要になってくるだろう。



ユースオリンピック陸上競技日本代表選手団

第22回日・韓・中ジュニア交流競技会報告

陸上競技選手団監督 村田 勇

期日：2014年8月23日（土）～28日（木）
 場所：北上市・花巻市（岩手県）
 日程：8月23日 陸上競技選手団集合
 8月24日 事前練習（北上総合運動公園陸上競技場）
 指導者ミーティング・監督会議
 8月25日 大会1日目
 8月26日 練習日（北上総合運動公園陸上競技場）
 8月27日 大会2日目・フレンドシップ交流会
 8月28日 解散

場所：宿泊 岩手県花巻市花巻温泉千秋閣
 大会 北上総合運動公園陸上競技場

選手団：正式役員3名、帯同コーチ6名
 選手男子11名、女子11名

選手選考

例年同様に、全国高校総体での上位入賞者を中心に選手を選考した。今年もすべての種目（男女各11種目）において上位選手が選考された一方で、22名中17名が初の国際大会出場となるフレッシュな選手団となった。

選手村・輸送

中国、韓国の選手と別の棟に宿泊していたため、日頃の生活の中での接点は殆どなかった。その点は交流大会の意義としてはもったいない気がした。また、食事については、ビュッフェの品数等もかなり多く、通常の国際大会と比較して恵まれていた。さらに、花巻温泉内のホテルであったことから、3棟あるホテルそれぞれの温泉を楽しむことができ、選手の疲労回復にはかなり効果的であった。ミーティングルームなどの手配も希望通りで、夕食後の流れで毎日全体ミーティングを行えたため、問題なく選手団内で情報共有ができた。

試合会場の北上総合運動公園陸上競技場までは、ホテルから大型バスで35分程度（約28km）と移動の負担も少なかった。ホテル周辺にはコン

ビエンスストア等がなかったものの、運転手さんのご厚意により試合帰りにコンビニによって頂くなど融通が利き、選手にとってはありがたかった。この点は、日本選手団専用のバスであったことから可能になったものと考えられる。

ホテルの館内施設、食事内容、輸送手段等申し分のない環境のもと生活を送ることができた。

成績・大会運営

競技会前日の監督会議では競技会を運営する地元の岩手陸上競技協会の丁寧な説明もあり、中国、韓国チームとも詳細な確認ができた様子であった。韓国の監督は昨年の中国大会も監督を務めた指導者で、私も昨年も参加しているため面識があった。会議後には、「会議内容も理解しやすく、競技会日程も選手が力を発揮しやすい競技時間となっていると大変に感心している」と話してくれた。大会としては、世界ジュニア選手権や、世界ユース選手権などの国際陸上競技連盟主催大会とは異なり、同じタイムテーブルで間に1日をはさみ、2回行うという特殊な大会であった。

競技会前日のミーティングでは、各チームとも全国高校総体後や秋のシーズンに向けての準備期の難しい時期での競技会ではあるが、日本代表に選出された喜びと誇りをもって、チームJAPANとして戦う事を選手もおよびスタッフ全員で確認をして志気を高めた。

大会1日目を終えた後のミーティングでは、選手から「競技会の雰囲気や出場選手のレベルからもモチベーションの維持が難しい」という声は聞かれた。しかし、我々コーチ陣から「全国高校総体はほとんど同じ日に予選や決勝が行われるが、国際大会に行けば予選と決勝が別の日に設定され、ラウンドを進める毎に前日のラウンドの課題を如何に克服し高いパフォーマンスを発揮するかが重要になる。今回は予選（1日目）で失敗した選手も、2回目のチャンスが与えられるため、何が課題でどう対処するかを中日の練習で解決していこう。」との話をした。世界ジュニア選手権の走幅跳でも入賞している今回キャプテンの佐久間滉大選手（法政大学第二高校3年）からも、「気持ちを切り替えて2日目にパフォーマンスを上げていけるようにしよう。」という話もあった。佐久間選手のこの一言は、自身がジュニアでの世界最高峰の国際大会を経験しているからこそ出てきたものだと思われる。ジュニア期においてより多くの選手が国際競技会を経験することは、かけがえのない経験であると感じる。結果的に2日目に自己記録やシーズンベストを更新する選手も見られ、調整が難しいこの時期としては良いパフォーマンスを発揮したのではないかと感じた。

各個人の主な成績は、第1戦目では男子110mJHに出場した古谷拓夢選手（相洋高校3年）が13秒67の従来高校最高タイ記録を樹立して優勝を果たし、男子砲丸投の戸辺誠也選手（東京学館船橋高校3年）が17m07の自己新記録をマークした。さらに、女子100mHのヘンピル恵選手（京都文教高校3年）は13秒51のセカンドベスト記録で優勝を果たした。第2戦目は前日ミーティングで選手全員が第2戦目に向けての決意表明をした。第1戦目では、女子1500mの加藤美菜選手（白鷗女子高校3年）が4分22秒63で、男子1500mの齋藤雅英選手（早稲田実業高校3年）が3分51秒16で、共に終始独走状態の中で自己新記録をマークして優勝を果たした。女子砲丸投の西川チカコ選手（城南高校3年）は14m53を投げて大幅に自己記録を更新し、男子砲丸投の戸辺選手も17m01を投げて大会前の自己記録を2試合連続で更新した。女子800mの奥田静香選手（東京高校3年）はシーズンベストとなるセカンド記録で優勝を果たし、男子やり投の花田研聖選手（自由ヶ丘高校3年）と女子400mの石塚晴子選手（東大阪大学敬愛高校2年）がセカンドベスト記録をマークし、女子4×100mリレーも十分なバトン練習が出来る中、目標とした45秒台には惜しく届かなかったが、2試合連続で今季高校ランク2位の記録をマークする活躍をした。他の選手も変則的なスケジュールに臨機応変に対応して現段階でのパフォーマンスを十分に発揮し、第1戦目では24種目中14種目で優勝、第2戦目では、同種目中11種目で優勝を果たした。

第1戦目で不本意な結果に終わった選手が第2戦目で修正を図り、結果に結びつけた修正能力・集中力は日本を代表する選手たちであると改めて感心させられた。

大会運営としては、岩手陸協が主管し、国内の一般的な競技会と同じように出場選手にとってはなんのストレスもない競技運営であった。一方で、海外において日本と違うことに戸惑ったりすることが国際大会において重要な経験であるとするれば、今年度は日本開催であったために、これを経験することができなかった。しかし、このように感じることは、岩手陸上競技協会のサポートが完璧であったことの裏返しであろう。

交流

本大会は、選手同士の交流を目的とした大会であるため、選手たちは各自の試合終了後に積極的に他国の選手と交流をしていたが、コミュニケーションを取るうえで言葉の壁が予想以上であった様子だった。初めて目の丸をつけて競技する選手が多かったため国際大会での語学の必要性を再認

表1 選手団名簿

No.	区分	出場種目	ふりがな		性別	所属
			氏名	姓		
1	団長		しげた	すすむ	男	日本陸連理事
2	監督		繁田	進	男	群馬県立太田東高等学校
			むらた	いきむ		
3	コーチ		村田	勇	男	神奈川県立釜利谷高等学校
			やの	じゅん		
4	選手	100m/ 4×100mリレー	矢野	純	男	近畿大学附属高等学校
			たきうち	まこと		
5	選手	200m/ 4×100mリレー	滝内	誠	男	相洋高等学校
			こんの	きょうすけ		
6	選手	400m/ 4×100mリレー	今野	恭佑	男	岩手県立盛岡南高等学校
			ささき	まなと		
7	選手	1500m	佐々木	愛斗	男	早稲田実業高等学校
			さいとう	まさひろ		
8	選手	110mH/ 4×100mリレー	齋藤	雅英	男	相洋高等学校
			ふるや	たくむ		
9	選手	走高跳	吉谷	拓夢	男	長崎県立諫早農高等学校
			まつもと	しゅいち		
10	選手	走幅跳/ 4×100mリレー	松本	修一	男	法政大学第二高校
			さくま	こうだい		
11	選手	三段跳/ 4×100mリレー	佐久間	滉大	男	洛南高等学校
			のぎさ	ちひろ		
12	選手	砲丸投	野崎	千晴	男	東京学館船橋高等学校
			とべ	せいや		
13	選手	円盤投	戸辺	誠也	男	神奈川県立瀬谷西高等学校
			まつい	とき		
14	選手	やり投	松井	俊樹	男	自由ヶ丘高等学校
			はなだ	けんせい		
15	選手	100m/ 4×100mリレー	花田	研聖	女	東京高等学校
			えどはら	いよば		
16	選手	200m/ 4×100mリレー	エドバー	イヨバ	女	酒田南高等学校
			さとう	ひなこ		
17	選手	400m/ 4×100mリレー	佐藤	日奈子	女	東大阪大学敬愛高等学校
			いしづか	はるか		
18	選手	800m/ 4×100mリレー	石塚	晴子	女	東京高等学校
			おくだ	しずか		
19	選手	1500m	奥田	静香	女	白鷗女子高等学校
			かとう	みいな		
20	選手	100mH/ 4×100mリレー	加藤	美菜	女	京都文教高等学校
			へんぶひる	めぐ		
21	選手	走高跳	恵		女	鳥取県立倉吉東高等学校
			てらたに	さとみ		
22	選手	走幅跳/ 4×100mリレー	寺谷	諭美	女	鹿児島県立甲南高等学校
			うちのくら	ゆみ		
23	選手	砲丸投	内之倉	由美	女	徳島県立城南高等学校
			にしかわ	ちかこ		
24	選手	円盤投	西川	チカコ	女	滋賀学園高等学校
			しみず	まい		
25	選手	やり投	清水	麻衣	女	岡山県立倉敷中央高等学校
			たなか	らいむ		
			田中	栗夢	女	3年

識した選手がほとんどであった。最終日の夜に実施されたフレンドシップ交流を含め、選手たちにとっては素晴らしい体験や思い出となった。

最後に

種目によって異なると思うが、試合や練習時間以外の自由な時間は通常の国際大会と比較し多く感じた。この時間を有効活用して、日韓中の指導者の質を向上させるための研修等を行うのも良いかと感じる。国際連盟

が主催する大会と違い、限られた指導者数での選手団のマネージメントをする必要があるため、各競技団体で今後国際競技会において中心的な役割を担うであろう若手指導者の「育成の場」として意味のある大会と感じた。

最後に今回の貴重な経験を参加選手団一同が今後のそれぞれの目標に繋げていくことを祈念して報告とする。

表2 第22回日・韓・中ジュニア交流競技会 陸上競技 (第1日)

日付	種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	
MEN Day 1	100m	Takiuchi Makoto JPN・JPN/近大附	10,42 Lee Jeong tae +4,4 KOR・韓国	10,71 Yang Yang +4,4 CHN・中国	10,73 Shimosawada Takaya +4,4 JPN・若手/盛岡工	10,76 Jiang Hao +4,4 CHN・中国	10,89 Sasaki Takashi +4,4 JPN・若手/盛岡一	11,50
MEN Day 1	200m	Komno Kyosuke JPN・JPN/相洋	21,73 Mogami Kouki +0,8 JPN・若手/盛岡南	22,06 Lee Doo ho +0,8 KOR・韓国	22,37 Yang Yang +0,8 CHN・中国	22,47		
MEN Day 1	400m	Sasaki Manato JPN・JPN/盛岡南	48,25 Mao Guorong CHN・中国	48,50 Park Min young KOR・韓国	49,53 Tanewata Ryou JPN・若手/盛岡南	50,67		
MEN Day 1	1500m	Saito Masahide JPN・JPN/早稲田実	4:00,98	4:04,28 Qian Xinan CHN・中国	4:06,65 Sakuraoaka Ryusei JPN・若手/盛岡南	4:07,20		
MEN Day 1	110mH (0,991m)	Furuya Takumu JPN・JPN/相洋	13,67 Shin Dong min +0,0 KOR・韓国	14,44 Yang Shiyuan +0,0 CHN・中国	14,55 Sasaki Takashi +0,0 JPN・若手/盛岡一	15,27		
MEN Day 1	4x100m	Takiuchi Makoto Sakuma Kodai Komno Kyosuke Furuya Takumu JPN	40,49	42,07 CHN	42,10	42,60		
MEN Day 1	走高跳 (High Jump)	Matsumoto Shuichi JPN・JPN/諒早農	2m08	2m05	2m02	1m80		
MEN Day 1	走幅跳 (Long Jump)	Sakuma Kodai JPN・JPN/法政二	7m38	6m96	6m80	+1,0		
MEN Day 1	三段跳 (Triple Jump)	Nozaki Chihiro JPN・JPN/清南	15m21	14m48	14m47	+1,8	13m74	
MEN Day 1	砲丸投 (S.P.6,0kg)	Kim In ho KOR・韓国	18m05	17m36	17m07		15m10	11m92
MEN Day 1	円盤投 (D.T1,75kg)	Zhang Xiangnan CHN・中国	56m47	49m90	47m05		39m94	28m01
MEN Day 1	やり投 (L.T.0,8kg)	Xu Jialie CHN・中国	64m04	62m92	62m40		53m58	
WOMEN Day 1	100m	Eddorb Iyoba JPN・JPN/東京	11,90 Ge Manqi +2,6 CHN・中国	11,91 Oh Sun ae +2,6 KOR・韓国	12,26 Tago Yuzuno +2,6 JPN・若手/花巻北	12,72	12,83	12,83
WOMEN Day 1	200m	Huang Guilfen CHN・中国	24,22 Ge Manqi +2,5 CHN・中国	24,46 Sato Hinako +2,5 JPN・山形/酒田南	24,60 Kim Ye ji +2,5 KOR・韓国	26,22	26,68	26,80
WOMEN Day 1	400m	Huang Guilfen CHN・中国	54,48	55,98	57,21	1:00,77	1:01,49	
WOMEN Day 1	800m	Jiang Zipei CHN・中国	2:11,58	2:12,64	2:19,94			
WOMEN Day 1	1500m	Kato Miina JPN・JPN/白鷺女	4:32,79	4:42,95	4:43,66			
WOMEN Day 1	100mH (0,840m)	Hemphill Meg CHN	13,51 Shi Jiali +1,8 CHN・中国	13,71 Sasaki Ten +1,8 JPN・若手/盛岡一	14,31 Choi Ji su +1,8 KOR・韓国	14,70	14,78	49,18
WOMEN Day 1	4x100m	Shi Jiali Huang Guilfen Sato Hinako Hemphill Meg CHN	45,81	46,04	48,55			
WOMEN Day 1	走高跳 (High Jump)	Teratani Satomi JPN・JPN/倉吉東	1m72	1m66	1m55	1m55		
WOMEN Day 1	走幅跳 (Long Jump)	Ye Xiaodan CHN・中国	5m92	5m76	5m73	5m51	5m09	5,09
WOMEN Day 1	砲丸投 (4,000kg)	Dong Yu CHN・中国	14m73	13m93	13m06	11m93	11m38	
WOMEN Day 1	円盤投 (1,000kg)	Zhang Wenjun CHN・中国	46m35	43m29	42m54	29m20		
WOMEN Day 1	やり投 (L.T.0,8kg)	Tanaka Raimu JPN・JPN/倉敷中央	44m11	44m10	41m69	36m32		

表3 第22回日・韓・中ジュニア交流競技会 陸上競技 (第2日)

日付	種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	
MEN Day 2	8月27日 100m	Takiuchi Makoto JPN・JPN/近大附	10,57 Lee Jeong tae -0,5 KOR・韓国	10,90 Yang Yang -0,5 CHN・中国	11,13 Shimosawada Takaya -0,5 JPN・若手/盛岡工	11,16 Sasaki Takashi -0,5 JPN・若手/盛岡一	11,88	-0,5
MEN Day 2	8月27日 200m	Komno Kyosuke JPN・JPN/相洋	21,34 Mogami Kouki -0,1 JPN・若手/盛岡南	21,98 Lee Doo ho -0,1 KOR・韓国	22,25 Jiang Hao -0,1 CHN・中国	22,35		
MEN Day 2	8月27日 400m	Mao Guorong CHN・中国	48,08 Sasaki Manato JPN・JPN/盛岡南	48,15 Park Min young KOR・韓国	49,09 Tanewata Ryou JPN・若手/盛岡南	50,57		
MEN Day 2	8月27日 1500m	Saito Masahide JPN・JPN/早稲田実	3:51,16	3:58,25 Qian Xinan CHN・中国	4:03,19 Sakuraoaka Ryusei JPN・若手/盛岡南	4:07,85		
MEN Day 2	8月27日 110mH (0,991m)	Furuya Takumu JPN・JPN/相洋	13,73 Shin Dong min -0,3 KOR・韓国	14,56 Yang Shiyuan -0,3 CHN・中国	14,69 Sasaki Takashi -0,3 JPN・若手/盛岡一	15,16		
MEN Day 2	8月27日 4x100m	Takiuchi Makoto Sakuma Kodai Komno Kyosuke Sasaki Manato CHN	41,06	41,81	42,20	42,80		
MEN Day 2	8月27日 走高跳 (High Jump)	Matsumoto Shuichi CHN・中国	2m05	2m05	1m99	1m90		
MEN Day 2	8月27日 走幅跳 (Long Jump)	Sakuma Kodai JPN・JPN/法政二	7m47	6m54	6m00	-2,2		
MEN Day 2	8月27日 三段跳 (Triple Jump)	Nozaki Chihiro JPN・JPN/清南	15m26	14m83	14m73		13m70	
MEN Day 2	8月27日 砲丸投 (S.P.6,0kg)	Han Jianping CHN・中国	17m57	17m32	17m01		14m17	
MEN Day 2	8月27日 円盤投 (D.T1,75kg)	Zhang Xiangnan CHN・中国	54m40	50m12	45m61		36m26	
MEN Day 2	8月27日 やり投 (L.T.0,8kg)	Hanada Kensei JPN・JPN/自由ヶ丘	68m92	66m10	65m41		58m59	
WOMEN Day 2	8月27日 100m	Ge Manqi CHN・中国	11,86	12,03	12,49	13,02	13,06	
WOMEN Day 2	8月27日 200m	Huang Guilfen CHN・中国	24,11	24,26	24,42	26,17	26,55	26,74
WOMEN Day 2	8月27日 400m	Huang Guilfen CHN・中国	53,91	54,93	55,82	59,04	1:01,01	
WOMEN Day 2	8月27日 800m	Okuda Shizuka JPN・JPN/東京	2:09,81	2:12,48	2:22,16			
WOMEN Day 2	8月27日 1500m	Takahashi Yuna JPN・JPN/白鷺女	4:22,83	4:41,70	4:48,02			
WOMEN Day 2	8月27日 100mH (0,840m)	Hemphill Meg CHN	13,74 Shi Jiali -0,1 CHN・中国	14,17 Sasaki Ten -0,1 JPN・若手/盛岡一	14,38 Choi Ji su -0,1 KOR・韓国	15,15	15,19	48,99
WOMEN Day 2	8月27日 4x100m	Shi Jiali Huang Guilfen Sato Hinako Hemphill Meg CHN	45,53	46,09	48,37			
WOMEN Day 2	8月27日 走高跳 (High Jump)	Teratani Satomi JPN・JPN/倉吉東	1m73	1m63	1m55	1m55		
WOMEN Day 2	8月27日 走幅跳 (Long Jump)	Ye Xiaodan CHN・中国	5m89	5m89	5m64	5m58	5m30	5,30
WOMEN Day 2	8月27日 砲丸投 (4,000kg)	Dong Yu CHN・中国	15m31	14m53	13m09	11m50	11m43	
WOMEN Day 2	8月27日 円盤投 (1,000kg)	Zhang Wenjun CHN・中国	48m92	43m63	41m21	31m49		
WOMEN Day 2	8月27日 やり投 (L.T.0,8kg)	Song Han Sol KOR・韓国	45m20	43m92	36m29			

強化関連情報

強化委員会

2014年9月18日に開催した本連盟第23回理事会において、「第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）競歩代表選手選考要項」、「第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）トラック&フィールド種目代表選手選考方針」、「2014-2015ナショナルリレーチームの編成」を承認しましたので、お知らせ致します。

第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京） 競歩代表選手選考要項

1. 編成方針

本大会及び、2016年に開催されるリオデジャネイロオリンピックでの活躍が期待できる競技者を中心として、メダル獲得及び入賞を目指すチームを編成する。

2. 選考競技会

(1) 男子

- ①第17回アジア競技大会（2014／仁川）
- ②第53回全日本50km競歩高島大会（2014／高島）
- ③第98回日本陸上競技選手権大会・20km競歩（2015／神戸）
- ④第39回全日本競歩能美大会（2015／能美）
- ⑤第99回日本陸上競技選手権大会・50km競歩（2015／輪島）

(2) 女子

- ①第17回アジア競技大会（2014／仁川）
- ②第98回日本陸上競技選手権大会・20km競歩（2015／神戸）
- ③第39回全日本競歩能美大会（2015／能美）

3. 選考基準

編成方針に基づき、下記の競技者の中から日本代表選手を選考する。

下記の種目ごとの内定条件と、選考条件を定める。

(1) 内定条件

- ・仁川アジア大会の優勝者
- ・国内選考競技会（男子②～⑤、女子②～③）日本人3位以内で、出場選考競技会終了時点で派遣設定記録A^{*1}を満たした競技者

(2) 選考条件（優先順位は①、②の順）

- ①国内選考競技会（男子②～⑤、女子②～③）日本人3位以内で、全選考競技会終了時点で派遣設定記録A^{*1}を満たした競技者

- ②国内選考競技会（男子②～⑤、女子②～③）日本人3位以内で、全選考競技会終了時点で派遣設定記録B^{*2}を満たした競技者

4. 派遣設定記録

種目	派遣設定A	派遣設定B
男子20km競歩	1時間20分12秒	1時間21分49秒
男子50km競歩	3時間44分36秒	3時間53分09秒
女子20km競歩	1時間29分21秒	1時間32分27秒

※1 派遣設定記録A：本連盟が定める、世界ランキング12位相当の記録

※2 派遣設定記録B：本連盟が定める、世界ランキング32位相当の記録

5. 選考方法

- (1) 選考基準（1）による選考は、即時内定とする。
- (2) 選考基準（2）による選考は、全選考競技会終了後、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、原案策定会議で決定し、理事会において報告する。

6. その他

- (1) 派遣設定記録の有効期間は、2014年1月1日から全選考競技会終了日までとする。
- (2) 代表選手は、編成方針及び選考基準に則って選考されるが、その派遣人数は国際陸上競技連盟が定めるエントリー数の上限の枠を保証するものではない。
- (3) 本大会で8位入賞した日本人最上位の男女各1名の選手を、第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）代表選手に条件付きで内定する。
- (4) 本大会までに故障等により、強化委員会が競技力を発揮できないと判断した場合、代表を取消すことがある。
- (5) 本大会は、2015年8月22日～8月30日まで北京（中国）で開催される。

第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京） トラック&フィールド種目代表選手選考方針

1. 編成方針

本大会及び、2016年に開催されるリオデジャネイロオリンピックでの活躍が期待できる競技者を中心として、メダル獲得及び入賞を目指すチームを編成する。

2. 選考競技会

- (1) 第17回アジア競技大会 (2014 / 仁川)
- (2) 第99回日本陸上競技選手権大会 (2015 / 新潟)
- (3) 第99回日本陸上競技選手権大会・混成競技 (2015 / 長野)
- (4) 2015日本グランプリシリーズ (兵庫・和歌山・広島・静岡)
- (5) ゴールドエングランプリ陸上 (2015)
- (6) 2015ワールドリレーズ (ナッソー)
※ 男女4×100mリレー及び男女4×400mリレーのみ対象
- (7) 第21回アジア陸上競技選手権大会 (2015 / 武漢)

3. 選考の優先順位

編成方針に基づき、下記の優先順位で日本選手権に出場した競技者の中から日本代表選手を選考する。

- (1) トラック&フィールド種目
 - 1) 派遣設定記録A^{※1}を満たし、日本選手権8位以内の最上位競技者
 - 2) 参加標準記録を満たした日本選手権優勝者
 - 3) 第17回アジア競技大会 (2014 / 仁川) (以下、「仁川アジア大会」) の個人種目優勝者で参加標準記録を満たし、日本選手権で8位入賞した競技者
 - 4) 派遣設定記録A※1を満たし、日本選手権8位以内の競技者
 - 5) 第21回アジア陸上競技選手権大会 (2015 / 武漢) (以下、武漢アジア選手権) の個人種目優勝者
 - 6) 日本選手権、日本グランプリシリーズ又はゴールドエングランプリにおいて、指定順位以内の成績を収め参加標準記録を満たした競技者※ 選考基準1)、4)、6) における100m、200m、400m種目の選考は、2015ワールドリレーズ派遣選手を優先して選考する。詳細は、国際陸上競技連盟 (以下、IAAF) が定める参加資格の確定後に、選考要項として定める。

(2) リレー種目

リレー要員としての代表選手は、種目の特性から原則2015ワールドリレーズに派遣された競技者又はナショナルリレーチームの競技者の中から選考される。

4. 選考方法

IAAFが定める参加資格確定後、日本選手権終了時点の選考条件と、日本選手権終了後の追加条件を別途定める。

5. 補足

- (1) 今後、IAAFが定める参加資格に準じて、選考方法を変更することがある。

- (2) 本選考方針は、IAAFが定める参加資格の確定後に、選考要項として確定する。
- (3) 参加標準記録の有効期間の期首は、下記の通り。10000m、混成競技、マラソン、競歩:2014年1月1日。その他の種目は2014年10月1日。
- (4) 本大会で8位入賞した日本人最上位の男女各1名の選手を、第31回オリンピック競技大会 (2016 / リオデジャネイロ) 代表選手に条件付きで内定する。
- (5) 武漢アジア選手権 (2015年6月3日~7日) の選考要項は、12月の理事会にて承認予定。選考競技会は、上記選考競技会の(4)、(5)、(6)とする。
- (6) 本大会は、2015年8月22日~8月30日まで北京 (中国) で開催される。
※1 派遣設定記録A: 本連盟が定める、世界ランキング12位相当の記録

2014-2015ナショナルリレーチームの編成について

第2回大会となる2015ワールドリレーズは、翌年に開催される第31回オリンピック競技大会 (以下、リオデジャネイロオリンピック) の出場権に直接的につながる大会となる。本大会は、リレー種目にとって目標となるリオデジャネイロオリンピックへとつながる強化戦略上重要な意味を持つ大会となるため、本大会に向けては競技者のリレーへの適性などを熟知した上でベストメンバーを派遣し、リオデジャネイロオリンピックの出場権を必ず勝ち取る決意である。

北京世界選手権及びリオデジャネイロオリンピックは当然のこと、その他の重点国際大会で好成績を残し、リレー大国を目指すためにもナショナルリレーチームを編成する。

1. ナショナルリレーチーム編成のための参考競技会

- (1) 2014年度日本陸上競技連盟公認競技大会
- (2) 国際陸上競技連盟及びその加盟国公認競技大会 (2014年4月1日~2014年10月末日)

2. ナショナルリレーチーム選抜方法

上記の参考競技会の結果から、強化委員会でリレーの特性を考慮しナショナルリレーチームを編成する。

また、2015ワールドリレーズは、原則ナショナルリレーチームに属する競技者から派遣される。

3. ナショナルリレーチーム編成時期

2014年11月中旬に、選抜方法に準じて強化委員会で編成し、理事会に報告する。

施設用器具委員会報告(14-1)

施設用器具委員会

◆平成26年度に公認した競技場及び長距離競走路

(26.04.09～26.09.10)

8841	函館市千代台公園(陸) 第2種 400m 全天候 継続	函館市千代台町22-24 2014.04.25～2019.04.24
8842	北上(陸) 第1種 400m 全天候 継続	北上市相去町高前檜地内 2013.04.01～2018.03.31
8843	とうほう・みんなのスタジアム 第1種(多) 400m 全天候 継続	福島市佐原字神事場 2014.03.26～2019.03.25
8844	県営あづま(陸)補助(陸)	福島市佐原字神事場 2014.03.26～2019.03.25
8845	真岡市総合(運)(陸) コード番号094050 第4種 400m	真岡市小林1900 2014.03.31～2019.03.30
8846	太田市(運)(陸) 第3種 400m 全天候 継続	太田市飯塚町1059 2014.03.25～2019.03.24
8847	東松山(陸) 第3種 400m 全天候 継続	東松山市大字松山1481 2014.03.31～2019.03.30
8848	千葉県立柏の葉公園総合(競) 第2種 400m 全天候 継続	柏市柏の葉4-1 2014.04.20～2019.04.19
8849	不入斗公園(陸) 第3種 400m 全天候 継続	横須賀市不入斗町1-2 2014.08.01～2019.07.31
8850	山梨県小瀬スポーツ公園(陸) 第1種 400m 全天候 継続	甲府市小瀬町840 2014.04.02～2019.04.01
8851	山梨県小瀬スポーツ公園補助(陸) 第3種 400m 全天候 継続	甲府市小瀬町840 2014.04.02～2019.04.01
8852	櫛形総合公園(陸) 第3種 400m 全天候 継続	南アルプス市桃園1600 2014.04.01～2019.03.31
8853	富山県総合(運)(陸) 第1種(B) 400m 全天候 継続	富山市南中田368 2013.09.30～2018.09.29
8854	瑞穂公園(陸) 第1種 400m 全天候 継続	名古屋市長瀬区山下通5-1 2014.06.01～2019.05.31
8855	愛知県一宮(総)(陸) 第3種 400m 全天候 継続	一宮市千秋町佐野向農756 2014.04.01～2019.03.31
8856	堺市金岡公園(陸) 第2種 400m 全天候 継続改造	堺市北区長曾根町1179-18 2014.05.31～2019.05.30
8857	関西大学千里山中央(ゲ) 第4種 400m 全天候 継続	吹田市千里山東3-1608-1 2014.05.01～2019.04.30
8858	浜田市(陸) 第4種 400m 一部全天候 継続	浜田市黒川町3739 2014.03.25～2019.03.24
8859	防府読売(長) 42km195 10km 自転車計測 循環	防府市(陸)～防府市大字田島北側 2014.03.28～2019.03.27
8860	島原市営(陸) 第2種(B) 400m 全天候 継続	島原市上の原3-5643-7 2013.04.01～2018.03.31
8861	福岡県立久留米スポーツセンター(陸) 第1種(B) 400m 全天候 継続	久留米市東櫛原町173 2013.07.30～2018.07.29
8862	熊本市水前寺(競) 第2種 400m 全天候 継続	熊本市中央区水前寺5-23-3 2013.06.20～2018.06.19
8863	函館(ハ) 21.0975km 自転車計測 循環	千代台公園(陸)～A谷地頭1～B湯の川町 2014.04.25～2019.04.24
8864	砺波市(陸) 第3種 400m 全天候 継続	砺波市深江815 2014.05.20～2019.05.19
8865	上田市上田城跡公園(陸) 第4種 400m 一部全天候 継続	上田市二の丸4-58 2013.04.14～2019.04.13
8866	赤穂城南緑地運動施設(陸) 第4種 400m 一部全天候 継続	赤穂市加里屋1264 2014.05.30～2019.05.29
8867	法政大学多摩校地(陸) 第3種 400m 全天候 継続	町田市相原町4342 2014.04.30～2019.04.29
8868	石川県西部緑地公園(陸) 第1種条件付 400m 全天候 継続	金沢市袋島町南136 2014.03.31～2019.03.30
8869	石川県西部緑地公園(陸)補助(陸) 第3種 400m 全天候 継続	金沢市袋島町南170 2014.03.31～2019.03.30
8870	石川県西部緑地公園(陸)付帯投てき場 投てき場 継続	金沢市古府町西285 2014.03.31～2019.03.30
8871	一橋大学(陸) コード番号134240 第4種 400m	国立市中2-1 2014.04.30～2019.04.29
8872	スーパーレディス駅伝(30km) 30km 循環 継続 一部変更	福井県営野球場レフト側広場～福井市中消防署西分署前 2014.04.01～2019.03.31
8873	とくしま(長) 42km195 自転車計測 循環	神原エネルギー産業前～徳島市(陸) 2014.06.01～2019.05.31
8874	福岡市博多の森(陸) 第1種 400m 全天候 継続	福岡市博多区東平尾公園2-1-2 2014.05.10～2019.05.09
8875	金栗杯玉名公認(ハ) 21km0975 10km 自転車計測 往復	玉名市役所前～ 2014.05.07～2019.05.06
8876	薩摩川内市総合(陸) 第3種 400m 全天候 継続	薩摩川内市運動公園町3-30 2014.06.27～2019.06.26
8877	白石川緑地(陸) 第4種 400m 一部全天候 継続	白石市字中河原地内 2013.11.28～2018.11.27
8878	若狭高浜はまなす(10km) 10km 往復 継続	はまなす公園内～ A関電体育館前～B水明住宅前～ はまなす公園内 2014.05.01～2019.04.30
8879	福知山市立桃映中学校運動場 第4種 300m 一部全天候 継続	福知山市字堀1691 2014.07.26～2019.07.25
8880	加古川(運)(陸)補助(競) 第4種 300m 全天候 継続	加古川市西神吉町鼎1050 2014.07.01～2019.06.30
8881	世界遺産姫路城(長) コード番号287360 42km195 自転車計測 循環	大手前通り大手前公園前～ 姫路城三の丸広場 2014.04.29～2019.04.28
8882	広島県総合グランド補助(競) 第4種 300m 一部全天候 継続	広島市西区観音新町2-11-124 2014.04.29～2019.04.28
8883	仙台大学(陸) 第3種 400m 全天候 継続	柴田郡柴田町船岡南2-2-28 2014.06.20～2019.06.19
8884	弥彦(10km) 10km 往復 継続 一部変更	弥彦村麓(サンビレッジ弥彦前)～ A矢作B大戸 2014.05.12～2019.05.11
8885	美浜(20km) 20km 10km 往復 新設	丹生小学校前～A美浜町菅浜 B関西電力けやき台ハイツ～丹生埋立地会場 2014.05.31～2019.05.30
8886	上田古戦場(ハ) 21.0975km 10km 自転車計測 往復	上田古戦場前～小県郡青木村村松～ 県営上田野球場内 2014.07.01～2019.06.30
8887	土岐市総合活動センター(陸) 第4種 400m 全天候 継続	土岐市泉町定林寺字園戸958-14 2014.06.01～2019.05.31
8888	神戸総合(運)ユニバー記念(陸) 第1種 400m 全天候 継続	神戸市須磨区緑台 2014.06.15～2019.06.14
8889	神戸総合(運)補助(競) 第3種 400m 全天候 継続	神戸市須磨区緑台 2014.06.15～2019.06.14
8890	松江玉造(ハ) コード番号327140 21km0975 自転車計測 往復	玉造温泉「ゆ～ゆ」～ A仙石トンネル東口Bホテル白鳥前交差点 2014.06.01～2019.05.31
8891	福岡(長) コード番号407260 42km195 自転車計測 一部往復 片道	中央区天神パルコ東側～九州大学正門先～ 糸島市役所志摩庁舎前 2014.07.01～2019.06.30
8892	白老桜ヶ丘公園(陸) 第4種 400m 土質 継続	白老郡白老町緑丘4-636 2014.06.01～2019.05.31
8893	滝川市(陸) 第4種 400m 一部全天候 継続	滝川市二の坂町東3-2-1 2014.06.30～2019.06.29
8894	高山市中山公園(陸) 第3種 400m 全天候 継続	高山市山田町690 2014.07.07～2019.07.06
8895	カッパ(ハ) 21km0975 10km 自転車計測 往復	登米市体育館前～登米市中田町浅水字上川面 2014.03.29～2019.03.28
8896	小平市立中央公園(競) 第4種 400m 土質 継続	小平市津田町1-1-1 2014.07.20～2019.07.19
8897	しまだ大井川マラソンinリパティ(長) 42km195 自転車計測 往復	島田市役所前～ A焼津市飯淵先 B島田市相賀地先～島田市(陸) 2014.08.01～2019.07.31

8897	ヤンマースタジアム長居付設(30km)	ヤンマースタジアム長居～ 30km 21km0975 10哩 10km 周回 継続 一部変更 2014.07.08～2019.07.07
8898	神戸しあわせの村周回(20km)	しあわせの村外周道路～ 20km 10km 周回 継続 2014.08.02～2019.08.01
8899	島根大学(陸)	松江市民センター前～ 2014.06.22～2019.06.21
8900	伊万里(ハ)	伊万里市民センター前～ A 伊万里工業団地久原瀬戸線入口交差点～ Eスポワール伊万里前 コード番号417090 21km0975 10km 自転車計測 循環 一部往復 新設 2014.09.01～2019.08.31
8901	本渡(運)(陸)	天草市太田町2 2014.09.01～2019.08.31
8902	セントポールズフィールド	新座市北野1-2-25 コード番号114070 第4種 400m 全天候 新設 2014.07.23～2019.07.22
8903	高島(ハ)	高島町役場前～高島町大字安久津字蛭沢 21km0975 10km 自転車計測 往復 継続 2014.09.01～2019.08.31
8904	いわき(長)	いわき市いわき(陸)前～ A ヨットハウス敷地内Bいわき市泉町下川字大剣～ 諸0番地駐車場内 42km195 自転車計測 一部往復 片道 継続 一部変更 2014.08.08～2019.08.07
8905	円谷幸吉メモリアル公認(ハ)	須賀川市文化センター南側～ 須賀川市日照地内～須賀川アリーナ 21km0975 10km 自転車計測 往復 継続 一部変更 2014.06.28～2019.06.27
8906	府中市市民(陸)	府中市寿町2-20 2014.10.06～2019.10.05
8907	足立フレンドリー(ハ)	荒川河川敷千住新橋左岸高砂野球場前～ A 鹿浜橋手前B木根川橋先 コード番号137500 21km0975 10km 自転車計測 往復 新設 2014.10.01～2019.09.30
8908	厚木市荻野(運)(競)	厚木市中荻野1500 第2種(B) 400m 全天候 継続 2014.10.10～2019.10.09
8909	さわやか湖山池(ハ)	鳥取県立布勢総合(運)(陸)～ A 湖山公園前B厚生事業団入口交差点 コード番号317160 21km0975 10km 自転車計測 往復 新設 2014.09.01～2019.08.31
8910	東京オリンピック聖火宿泊記念久志(20km)	東京オリンピック聖火宿泊記念碑前～名護市宇二見 20km 10km 自転車計測 往復 継続 2014.09.08～2019.09.07
8911	紋別市(運)(陸)	紋別市南が丘町7丁目 第4種 400m 土質 継続 2013.08.14～2018.08.13
8912	男鹿なまはげ(ハ)	男鹿グラウンドホテル駐車場前～ A 北浦西水口B北浦入道崎 コード番号057080 21km0975 10km 自転車計測 往復 新設 2014.09.01～2019.08.31
8913	酒田シティ	酒田市光ヶ丘(陸)～A旧酒田商業高校前 B酒田北港宮海C酒田北港字小湊 コード番号067150 21km0975 自転車計測 往復 新設 2014.08.24～2019.08.23
8914	八千代市総合(グ)(陸)	八千代市村上2413 コード番号124090 第4種 400m 全天候 新設 2014.09.07～2019.09.06
室内76	印西市松山下(運)総合体育館室内棒高跳場	印西市浦部2364-2 2014.09.01～2019.08.31
8915	室内棒高跳場 新設	2014.09.01～2019.08.31
8915	金沢(長)	しいのき迎賓館前～A金沢駅前中央 B金沢城北市民(運)前C金沢西高校前～ 石川県西部緑地公園(陸)内 コード番号187240 42km195 自転車計測 循環 新設 2014.11.20～2019.11.19
8916	船岡(ハ)	船岡中学校校庭～A八頭町大江B八頭町見櫛中 21km0975 10km 自転車計測往復 継続 2014.09.20～2019.09.19
8917	益城町総合(運)(陸)	上益城郡益城町木山236 第4種 400m 全天候 継続 2014.09.16～2019.09.15
8918	北見(ハ)	北見市香りゃんせ公園～ コード番号017480 21km0975 自転車計測 循環 新設 2014.10.05～2019.10.04

8919	愛知県岡崎(総)	岡崎市真伝町亀山12-2 第4種 400m 一部全天候 継続 2014.06.30～2019.06.29
8920	岡岡(運)(競)付設(ハ)	岡岡(運)(競)～ A 国道372号線赤熊美ノ田B府道宮川千歳線 コード番号267150 21km0975 10km 自転車計測 往復 新設 2014.10.01～2019.09.30
8921	井原(運)(陸)	井原市上出部町1583 第4種 400m 一部全天候 継続 2014.10.01～2019.09.30
8922	九州学院(陸)	熊本市中央区大江5-2-1 第4種 300m 全天候 継続 2013.09.01～2014.08.31
8923	沖縄県総合(運)補助	沖縄市比屋根672 第3種 400m 全天候 継続 2014.09.30～2019.09.29

◆検定延期が承認されている競技場及び長距離競走路 (2014.09.10現在)

[北海道]	小樽市手宮公園(陸)	第3種 400m 2014.09.18～2014.11.17
[岩手]	久慈市(総)(陸)	第4種 400m 2013.09.01～2014.08.31
[岩手]	遠野じんぎすかん(ハ)	2014.05.22～2015.05.20
[岩手]	大船渡市(長)	2014.08.28～2015.08.26
[福島]	あぶくま高原いいたて(長)	2014.09.30～2015.04.29
[群馬]	前橋シティ(ハ)	2014.01.06～2015.01.05
[東京]	東京学芸大学(陸)	第4種 400m 2014.04.22～2015.03.31
[福岡]	大野(ハ)	2013.12.01～2014.11.30
[福岡]	中日福井(ハ)	2014.08.01～2015.07.30
[鳥根]	三成公園(陸)	第3種 400m 2014.03.30～2015.03.20
[愛媛]	しおさい公園伊予市民(競)	第4種 400m 2013.11.03～2014.11.01
[愛媛]	愛媛県総合(運)補助	第3種 400m 2014.10.01～2015.03.31
[高知]	宿毛花へんろ(長)	2014.02.22～2015.02.21
[福岡]	小郡(運)小郡市(陸)	第2種 400m 2014.02.28～2015.02.26
[長崎]	長与総合公園(運)広場	第4種 400m 2014.12.17～2015.12.16

◆公認が廃止となった競技場及び長距離競走路 (2014.04.09～2014.09.10)

[岩手]	三陸総合(運)(グ)	第4種 200m 2014.03.31限り
[岩手]	北上(陸)付帯投てき場	2014.05.31限り
[宮城]	大和町(陸)	第4種 400m 2014.03.29限り
[宮城]	女川町民(陸)	第3種 400m 2012.08.02限り
[埼玉]	熊谷スポーツ文化公園(ハ)	2014.07.21限り
[新潟]	弥彦村民(総)内村営(陸)	第4種 400m 2014.06.30限り
[新潟]	長岡市(ハ)	2015.03.30限り
[石川]	小松安宅(長)	2014.06.21限り
[石川]	金沢市民(10km)	2014.06.01限り
[三重]	三重県営総合競技場(陸)付属(長)	2014.08.16限り
[京都]	亀岡(運)(競)付設(10km)	2014.08.31限り
[鳥根]	松江玉造(ハ)	2014.03.31限り
[広島]	聖湖畔(ハ)	2014.05.31限り
[熊本]	熊本県立多良木高等学校運動場	第4種 300m 2014.07.06限り
[大分]	別府大分毎日(長)	2014.01.09限り

◆種別変更のあった競技場(2014.04.09～2014.09.10)

[神奈川]	大和市営大和スポーツセンター	第2種⇒第3種(降格) コード番号143180
-------	----------------	-------------------------

◆名称変更 (2013.04.09～2014.09.10)

[福島]	県営あづま(競)	⇒とうほう・みんなのスタジアム
------	----------	-----------------

インターハイにおける科学委員会バイオメカニクス研究活動報告

科学委員会 柳谷 登志雄

1. 活動概要と目的

2014年7月30日から8月3日までの5日間にわたり、南関東インターハイ（第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会）が山梨県甲府市・山梨中銀スタジアムを会場として開催されました。各地区大会を勝ち抜いた高校生トップアスリートが山梨に集結し、今年も例年同様に熱戦が繰り広げられました。

科学委員会では、インターハイに出場する高校生アスリートの競技を対象として、バイオメカニクスデータを収集する活動を実施致しました。この活動は、第46回大会以来、主催者の皆様はじめ関係者様の多大なご協力を得まして、毎年継続して実施させて頂いています。特に本年は2020年の東京オリンピックを6年後に控えており、本大会に出場する高校生アスリートが東京オリンピックで活躍する年代になると考えられます。そのため、この年代の競技者に関する基礎資料を収集することは、今後の選手強化にも役に立つと考え、従来は決勝を中心としていたデータ取得や分析の対象を、本年度は準決勝出場者にまで拡大して実施致しました。

2. 活動内容

科学委員会によるインターハイの研究活動は、主に以下の2点でした。

- (1) バイオメカニクスデータの取得
- (2) 栄養・障害調査（質問紙）の配布

本年の活動は班員をトラック班、跳躍班、投擲班の3班に分け、基本的にそれぞれの種目について活動を実施するものの、必要に応じて班を跨いでサポートするという体制で活動を進めました。

なお、大会期間中、メインスタンド下の会議室1室を科学委員会に提供して頂き、そこをカメラ機材の置場およびコンピュータなどの機器の設置場所としてデータ取得と分析を行いました。また、電源も確保することが出来たため、各種機器の充電も行うことが出来ました。

2-1 データの取得について

「バイオメカニクスデータの取得」では、ビデオ映像を中心としたデータの取得と分析、およびレーザー式スピード計（LAVEG SPORTS、以下ラベッグ）を用いた疾走スピード（含：助走スピード）変化の測定を実施致しました。

ビデオ映像のデータについては、動作（フォーム）分析用映像と各地点の疾走スピード分析用映像の撮影を、ハイスピードビデオカメラを用いて行いました。また、ラベッグを用いた疾走スピード変化の測定については、100m走スタート地点後方に設置された協賛企業の看板の後方にラベッグを5台設置して行いました。

「栄養・障害調査（質問紙）の配布」については、各種目で8位以内に入賞した競技者を対象に、栄養・障害調査に関する質問紙を配布致しました。直接回答を書き込める質問紙と返信用封筒を同封したものを、表彰者招集所にて配布致しました。なお、回答の期限を8月中と

致しました。

2-2 データフィードバックについて

データフィードバックとしては、各種目のフォームについてはハイスピードカメラの映像から連続（分解）写真の作成およびスティックピクチャーを作成しました。また、タイム分析については通過タイムからスピード変化を表すグラフを作成するとともに、数値を示す表を作成しました。疾走スピードおよび跳躍種目の助走スピードについても、地点毎のスピード変化を表すグラフを作成しました。

データの掲示板は選手招集所（100m走スタート地点付近）とサブグラウンドを結ぶ歩道の途中に、他の計時記録用掲示板とともに設置して頂きました。そのため、多くの方の目に触れることが可能でした。

データフィードバックは、データ取得後、出来るだけ速やかに分析を行い、遅くとも翌日中には科学委員会用掲示板に掲示致しました。

3. 活動班員について

インターハイ会場における活動は、科学委員会スタッフ18名に加えて、国立スポーツ科学センターの動作分析担当者2名の合計20名により、合同で実施致しました。なお、活動班員は大会事務局より、他の部署のスタッフと同じユニフォームを支給して頂き、これを着用し、さらに周囲から科学委員会スタッフであることがわかるように、科学委員会指定のビブスを着用して活動に従事しました。

各種目の活動班員（所属など）は以下の通りです。

〈トラック担当〉柳谷登志雄・福田厚治・小林海・門野洋介・山元康平・森丘保典・杉本和那美・関慶太郎・辻秀憲

〈跳躍担当〉清水悠・大津卓也・沼津直樹・水野祐介・広野泰子

〈投擲担当〉高松潤二・広瀬健一・伊瀬知優翔・野中愛里

〈動作分析スタッフ〉山本真帆・山中亮

4. バイオメカニクスデータの一例

インターハイにおけるバイオメカニクスデータの取得と分析およびフィードバックは、ほぼ全ての種目について実施しており、詳細なデータの提示と解説は「陸上競技マガジン」などでご詳細させて頂いています。ここではその一例として、男子110mハードルを二連覇で優勝した古谷拓夢選手（相洋高校3年）のデータをご紹介します。

古谷選手は昨年の決勝において高校日本記録を樹立したため、今大会はその更新が期待されていましたが、記録は向かい風ということもあり、昨年を下回るものでした。しかし、2大会のレースを通過タイムおよびスピードのデータで比較すると、古谷選手は7台目まで、昨年のタイムを上回るタイムで通過していたことがわかります。また、その時のビデオ映像をみると、古谷選手が7

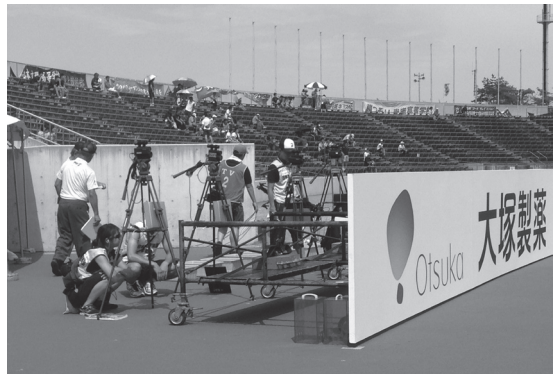
台目と10台目のハードルに接触していたことがわかります。このことから、古谷選手のスピードは昨年比べて向上したものの、レース後半にハードルと接触したことにより、後半のスピードが大きく減少したことがわかります。

このように、競技において測定したデータを解析すると、競技記録だけではわからないことが示され、今後の練習の課題が明確となり、競技力向上に役立つ可能性が考えられます。また、古谷選手の例からも、測定や分析は単発的に実施するだけでなく、継続的に実施することに意義があることもわかります。

5. まとめ

インターハイにおいて実施している内容と同様の測定は、春季に開催される日本グランプリシリーズや日本選手権などにおいても、主に日本代表やその候補の競技者を対象として実施しています。これと同種のデータ収集と分析をインターハイにおいても実施することは、インターハイに出場する高校生のパフォーマンスを日本のシニア・トップレベルの選手と比較することで現状を捉え、今後更に成長するための課題を明確にするという意味でも非常に重要であると言えます。また、この活動を継続的に実施することにより、シニア・トップレベルの選手がどのような過程を経て現在のようレベルにまで到達したのか、あるいは逆に、高校生トップレベルにある選手が、その後、どのようにパフォーマンスが変化していくのかを追跡していくことも、非常に重要であると思われます。

ところで、現在、男子短距離走種目で日本代表として活躍する高瀬慧選手（富士通）は、高校生の時にはインターハイにおいて準決勝で敗退しています。つまり、現時点では未だ力を発揮することが出来ていなくても、2020年の東京オリンピックでは代表となるレベルまで成長する選手が潜んで居る可能性があるということ



ラベッグによる走スピード測定準備風景

す。しかし、残念ながら、当時の高瀬選手に関する映像やデータは、競技記録を除き殆ど残っておりません。そこで本年の活動では、時間などの関係でデータの分析は行っておりませんが、ビデオ撮影やデータ収集の対象を準決勝レベルにまで広げました。

通常、科学委員会によるデータは、強化委員会委員および対象選手などに対して、紙媒体およびデジタルデータとしてフィードバックされていますが、インターハイについては、表とグラフあるいは写真という形で、インターハイ会場に設置された掲示板を用いてデータの即時フィードバックを行っています。これにより、インターハイでは、対象の競技者やその指導者のみならず、会場に来た全ての方が競技終了後速やかに見ることが可能にしています。また、これらの掲示物については、過去のインターハイのものも含めて、日本陸上競技連盟ウェブサイトにおける科学委員会のページからPDFファイルでダウンロードすることが可能となっています。

最後に、科学委員会による活動を実施するにあたり、ご協力・ご尽力を頂きました関係各部所の皆様に心より御礼を申し上げます。

表1 古谷拓夢選手（相洋高校3年・神奈川）のデータの比較

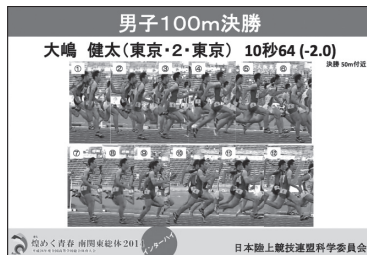
レース名	タイム	測定項目	1台目	2台目	3台目	4台目	5台目	6台目	7台目	8台目	9台目	10台目	フィニッシュ
2014年 インターハイ決勝	14.05 (-2.4)	通過タイム (秒)	2.64	3.74	4.82	5.89	6.97	8.05	9.16	10.27	11.39	12.55	14.05
		区間タイム (秒)	2.64	1.10	1.07	1.07	1.08	1.11	1.12	1.12	1.16	1.50	
		区間速度 (m/秒)	5.57	8.31	8.52	8.52	8.46	8.49	8.24	8.19	8.18	7.88	8.68
2013年 インターハイ決勝 (日本高校記録)	13.92 (+0.4)	通過タイム (秒)	2.71	3.79	4.89	5.97	7.02	8.10	9.18	10.27	11.37	12.50	13.92
		区間タイム (秒)	2.71	1.08	1.10	1.08	1.05	1.08	1.08	1.09	1.11	1.12	1.42
		区間速度 (m/秒)	5.43	8.49	8.31	8.46	8.68	8.46	8.49	8.41	8.26	8.14	9.14

「区間タイム」「スピード」は各測定ポイント間の値。「1台目」はスタートからの値、「フィニッシュ」は10台目からの値。

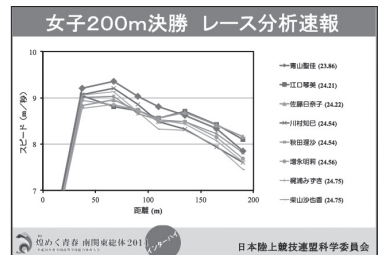
科学委員会分析データ掲示板



科学委員会分析データ掲示板



掲示した連続写真の例 (男子100m)



掲示したスピード曲線の例 (女子200m)

マラソンメディスンセミナー2014報告

理事・医事委員長 山澤 文裕

日本陸連は2013年9月にマラソンメディスンセミナーを開催し、より安全なマラソン大会の運営に寄与することを目的に、主催者側がどのような医療体制を構築すべきかについて討議した。本年も2014年9月15日に味の素ナショナルトレーニングセンターにてマラソンメディスンセミナー2014を開催した。参加者は日本陸連公認コースマラソン大会主催者および医療救護関係者で、講演者を含め54名であった。セミナー概要は以下のとおりである。

尾縣貢専務理事は、事故は起きると想定して準備する、AEDの果たした役割は大きい、実際その場で使えるのか、予期せぬことに対応できる体制を作らなくてはいけない、と挨拶した。

関根春幸競技運営委員会競技部副部长より、競技者の安全を確保するため、①主催者は競技者や役員の安全を確保する、②主催者が任命したスタッフによる競技者の検診は助力とみなさない、③医師又は競技役員から中止を命じられたら競技をやめなければならない、ことが強調された。助力は競技者の手助けとなる行為（後輩を先輩が押しながら走るなど）を禁じており、助力をしたとみなされた場合は協力したもの、されたものどちらも失格となる。マラソン大会中に選手が倒れた場合は、医療スタッフが直ちに現場へ向かうことができないという道路競技の特性上、大会スタッフが行う理学療法や応急処置は助力とはみなしていない。

岡田邦夫医事委員は、申し込み時健康チェックリスト、スタート前チェックリスト、マラソン10か条について解説した。かかりつけ医への医療相談を推奨し、スタート前に問題があれば参加中止も考慮してほしいと訴えた。マラソン大会中はどこで何が起こるか予知できないため、いつでもAEDを使えるような準備が必要であると強調した。

筆者は、3000人以上参加の27大会から回答されたアンケート調査結果を報告した。傷害疾病保険への加入、医療救護委員会設置、事前救命講習会実施の大会が2013年度調査より増え、本セミナーの効果があつたものと推察された。しかし、当日の健康チェックリスト、マラソン10か条などを、まだ活用していない大会があることも報告した。

大規模市民マラソン大会として、青島太平洋マラソン・中武梯晴事務局長と奈良マラソン・守川義信メディカルディレクターより医療体制につき紹介があつた。青島太平洋マラソンは全国でも珍しい民間主催の大会で、本年度は28回目、当初600名の参加者が1万人規模となり、参加者数を制限している。大会規模の拡大に伴い救護体制を見直し、現場で心肺蘇生に対応できるよう、地元の救急チームの組織化を図り、救護所の増設、AED隊の設置を行った。昨年の大会の心肺停止例では、発生場所の特定は速やかに最短距離で救急車が到着できたが、大会本部や救護所への連絡が無く、救急車がコース内を走行する際の誘導方法が不明確で、AEDが1回の使用で残量切れがあつた、など課題が残つたと報告され

た。加入する保険の補償内容に関して、全国の大会で異なることについて問題が提起された。

奈良マラソンは平城遷都1300年記念事業からフルマラソンが始まった。救護所は14カ所、収容バスは2台、モバイルAED隊は25組備えている。参加者は3km、10km、フルあわせて15000人である。奈良マラソンでは全国に先駆けて災害医療の考え方をマラソン救護に導入した。災害急性期に活動できる機動性をもった医療チームDMATは、判断・渉外・安全管理を担う指揮部を筆頭に医師、看護師、業務調整員からなる。業務調整員は情報収集や発信、後方支援、記録などを担う。マラソン大会救護本部においても記録は特に重要であるため、誰が連絡をうけてどう対応したのか時系列の情報をもとめるのに業務調整員を増員した結果、連絡時間の短縮が図れた、組織体制として責任の明確化が図れたと報告した。

山澤文裕・東京マラソン財団理事は、東京マラソンが2013～2014年に実施した多数傷病者事故対策に係る警備・救護強化プロジェクトについて報告し、他の大会でも検討することを促した。

東京大学医学部附属病院災害医療マネジメント部・中尾博之部長より、「マスカジュアルティとトリアージ」と題した特別講演をうかがった。Mass Casualty Incident (MCI) とは多数傷病者が発生する事故をいい、Mass Gathering Incident (MGI) とは群衆が集う所で発生する事故をいい、両者は異なる概念である。群衆が集う所では人が多すぎて何が起きているかわからないため、現場で多大な混乱を生じるという特徴がある。マラソンは観客を含めると群衆の規模としては大きい、サッカーのように感情がさほど入るものではないため、今まで災害の起きる発生頻度は低いと考えられていた。しかしながら、政治的な背景が入ると容易ではなく、テロは特異な災害発生因子であり、今後十分な対策が必要であると考えられる。トリアージについて、その目的は重症患者を適切な医療機関に分散させ、避けられる死を防ぐことにある。トリアージタグを用いることが多いが、複写文字が消えやすいことに注意が必要である。

講演に続き、向井直樹医事副委員長の司会で、これまでほとんど議論されなかったことのないマラソン大会で加入する保険に関して議論が多くかわされた。マラソン参加者が大会ごとに補償金額が異なることは知られていない現状を認識し、少なくとも傷害保険だけではなく、熱中症や心停止などもカバーされる傷害疾病保険に加入することをすすめ、かつ参加者に対して明示されるべきであろう、とされた。また、医療に関する個人情報管理についての議論もあつた。

各大会で抱える問題・課題を、本セミナーを通して前向きに取り組めるようなアイデアを入手し、また新たな課題を見つけることができたと思われる。次年度も開催できるよう、関係者の皆様の協力を引き続きお願いしたい。

大会観戦ガイド

第53回全日本50km競歩高島大会 兼第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京) 男子50km競歩代表選手選考競技会

来年、中国・北京で開催される世界選手権の選考競技会となる同大会。トップウォーカーたちが高島でしごきを削ります！

▼日時：10月26日（日）

▼会場：高島町まほろば競歩コース日本陸連公認競歩コース（2.0km周回コース）

▼主なタイムテーブル（スタート時刻）

全日本競歩（50km）8：00

高島競歩（20km）一般男子8：30、一般女子8：05

▼アクセス：東京⇄高島（山形新幹線）約2時間20分
仙台⇄山形⇄高島（仙山線⇄奥羽本線）約1時間40分

▼問い合わせ先：高島競歩大会事務局

TEL：0238-52-4490 / 0238-52-2719

FAX：0238-52-4490 / 0238-52-5043

2日生～2000（平成12）年4月1日生）

B. 13歳以上～14歳未満（2000（平成12）年4月2日生～2001（平成13）年4月1日生）

C. 12歳以上～13歳未満（2001（平成13）年4月2日生～2002（平成14）年4月1日生）

【日本選手権リレー】

〈男子 2種目〉4×100mリレー、4×400mリレー
〈女子 2種目〉4×100mリレー、4×400mリレー

▼入場料：1,000円（1日）

※65歳以上・高校生以下無料 ※当日券のみ

▼問合せ先：神奈川県陸上競技協会

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼大会公式ページ：

ジュニアオリンピック

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1214/>

日本選手権リレー

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1213/>

第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会 第98回日本陸上競技選手権リレー競技大会

中学生アスリートの夢の舞台、ジュニアオリンピック！リレー日本一を決定する日本選手権リレーも同時開催！ぜひ日産スタジアムに足を運んで下さい！

▼日時：10月31日（金）～11月2日（日）

▼場所：日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：JR横浜線・市営地下鉄「新横浜駅」下車徒歩15分、JR横浜線「小机駅」下車徒歩5分

▼種目

【ジュニアオリンピック】

〈男子〉区分A：100m、200m、3000m、110mJH、走高跳、砲丸投 区分B：100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投 区分C：100m、1500m、走幅跳
区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

〈女子〉区分A：100m、200m、3000m、100mYH、走高跳、砲丸投 区分B：100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投 区分C：100m、800m、走幅跳
区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

*年齢区分：2014年4月1日を基準として満年齢によって、下記のとおり3区分する

A. 14歳以上～15歳未満（1999（平成11）年4月

第6回横浜国際女子マラソン大会 兼第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)代表選手選考競技会 兼第98回日本陸上競技選手権大会女子マラソン

2008年をもって30年の歴史に幕を閉じた東京国際女子マラソンを受け継ぐ、横浜国際女子マラソンの第6回大会。来年の北京世界選手権女子マラソン代表をかけた争いを応援ください！

▼日時：11月16日（日）12：10スタート

▼コース：山下公園前スタート～横浜市内～山下公園内フィニッシュ

▼アクセス（山下公園）：みなとみらい線「元町・中華街駅」より徒歩3分、JR・市営地下鉄「桜木町」より市営バス26系統「山下公園前」下車徒歩1分

▼参加標準記録：マラソン 3時間15分以内
30km 2時間10分以内
ハーフマラソン 1時間25分以内

▼問合せ先：神奈川県陸上競技協会

「横浜国際女子マラソン大会事務局」

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼テレビ放映予定：テレビ朝日系列など

12：00～14：55

▼日本陸連HP内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1215/>

公式ホームページ

<http://www.yokohamawomensmarathon.com/mention.html>



JAAF OKAYAMA

一般財団法人岡山陸上競技協会

〒700-0012 岡山市北区いずみ町2-1-11 岡山県陸上競技場内
TEL.086-214-3156 FAX.086-214-3156
http://www.tiki.ne.jp/~oka-rikkyou/

昨年11月に岡山陸上競技協会前会長・佐々木勝美氏が退任され、岡山陸上競技協会新会長・越宗孝昌氏が就任され今シーズンを迎えることになった。

今期トラックシーズンも終盤であるが、第17回アジア大会日本代表に100mH・青木益未選手（環太平洋大学2年）、20km競歩・井上麗選手（天満屋）の2名が選出され、地元の熱い声援を送られている。また、昨年度の東京国体では天皇杯37位、皇后杯20位と例年を下回る成績であったが、今年度の長崎国体では挽回すべく強化をすすめている。少年女子を中心とした活躍が期待される。

トラックシーズンが終わると、駅伝シーズンを迎えるが12月に開催していた山陽女子ロードレースが本年度は11月16日（日）に変更され、駅伝シーズンのスタートになる。

実業団駅伝・高校駅伝・都道府県駅伝での選手の活躍を期待したい。

JAAF YAMAGUCHI

一般財団法人山口陸上競技協会

〒753-0815 山口市維新公園4-4 維新百年記念公園陸上競技場内
TEL.083-920-6125 FAX.083-920-6125
http://yaaf.jp/

香川県で行われた全日本中学校陸上競技選手権大会では、男子100m、200mで宮本大輔選手（周陽中3年）が優勝。全国の大舞台で二冠を達成し、男子最優秀選手賞（文部科学大臣賞）を受賞しました。同大会で大玉華鈴選手（明木中3年）も、四種競技で準優勝の大活躍。

また、山梨県で開催された全国高校総体でも南野智美選手（西京高3年）が七種競技で3位、伊藤乃選手（西京高2年）が100mHで8位入賞と、ジュニアの活躍が目立った今年の夏でした。

12月13日（土）～14日（日）には、山口県セミナーパークを会場に、第22回全国中学校駅伝大会を開催します。拠点事業として10年間開催の9年目になりますが、これまでの運営の経験を生かしつつ、原点に戻って世界に羽ばたく中学生を育てるような、前向きであたたかみのある大会運営ができるよう、実行委員会を中心に日々準備を進めています。



JAAF HIROSHIMA

一般財団法人広島陸上競技協会

〒730-0011 広島市中区基町4-1
県立総合体育館（公財）広島県体育協会内
TEL.082-223-3256 FAX.082-222-6991
http://www1.ocn.ne.jp/~hrk34/index.htm

間もなく開催される長崎国体では、広島県勢から、29名の参加選手を予定している。成年男子100mでは、山縣亮太選手（慶應義塾大学）の大学生活を締めくくる走り期待をしている。また、成年女子100mHでは木村文子選手（エディオン）の活躍が楽しみである。そして、少年女子A3000m出場の小吉川志乃舞選手（世羅高校）は、全国高校総体の女子3000mにおいて6位に入賞している。安定性もあり伸び盛りの選手である。今年も、広島チーム一丸となって国体に臨んでいきたい。

全日本中学校陸上競技選手権大会では、棒高跳で、高美が丘中の岡本江琉選手が3位、菅颯一郎選手が4位と同一校から2名入賞した。『東京の星』を意識し、若手選手育成にも努めていきたい。

毎年、広島で行われる都道府県対抗男子駅伝大会に向け、広島の男子チームは、今年こそ『日本一』になるため合宿を重ねている。走ることはもちろん、食事の指導も行う。また、合宿先近くの住職から講話を受け、『調身・調息・調心』が重要な要素であることや座禅と走りには共通点があること、集中力について、シューズの扱い方から心を学ぶなど、合宿毎に選手としての基本を知り、学び合う場にもなっている。速い選手になることだけでなく、強い選手になるために……。息の長い選手生活をイメージした中学生、高校生の強化に努めている。女子チームも、同様に京都で昨年よりも上位に入れるよう、合宿を重ねている。本格的な駅伝シーズンに向けて、軌を一にして取り組んでいきたい。

JAAF TOKUSHIMA

一般財団法人徳島陸上競技協会

〒772-0011 鳴門市撫養町大桑島字湊岩浜6-23
TEL.088-678-7914 FAX.088-678-7921
http://www.jaafokushima.com/

Jリーグとの競技場併用の問題で、地方陸協は何処もたいへん苦勞していると聞いていますが、徳島も決して例外ではありません。

2014年には徳島ポルティスがJ1に昇格し、観客数が大幅に増えるという理由から、これまで苦肉の策としてやむを得ず実施してきた大会の同日併用開催すら、非常に難しい状況となってきました。

そんな中20数年前から懸案となっていたが財政難を理由に見送られてきた、県南部、阿南市における陸上競技場建設の案が一気に浮上し、徳島陸協関係者の間では明るい話題となっています。

県南地区の小、中、高生は現在練習するのにたいへん苦勞を強いられています。大会前の調整や本格的な練習は、鳴門や徳島の競技場まで出向いて実施しなければなりません。列車やバスでの1時間半を越える移動は毎回たいへんな負担となっています。

先日、この競技場についての第1回目の設計協議を県と陸協において実施しました。そんな中最優先事項として確認したのは、1日でも早く大会や練習が可能な状況の整備を目指す、ということでした。また、全天候の400m走路や写真判定装置の設置、ウォームアップ場や器具倉庫、更衣室、トイレの設置などは当然ながら、あとは最低限のもので構わないので、とにかく1日でも早く完成をとの要望をしました。

この陸上競技場が県南の陸上の拠点として活用され、県南のみならず徳島県全体の陸上競技の活性化に繋がることを大いに期待したいと思えます。

事務局からのお知らせ

◆◆北京世界選手権に向けた戦いが始まっています！◆◆

来夏、中国・北京で開催される第15回世界陸上競技選手権大会のマラソン・競歩のこれからの選考競技会は下記の通りです。是非、競技場・沿道で代表をかけた熱い戦いに応援をお願い致します。

〈男子マラソン〉

・第68回福岡国際マラソン選手権大会	2014年 12月 7日 (日) 開催
・第64回別府大分毎日マラソン大会	2015年 2月 1日 (日) 開催
・東京マラソン2015	2015年 2月22日 (日) 開催
・第70回びわ湖毎日マラソン大会	2015年 3月 1日 (日) 開催

〈女子マラソン〉

・第6回横浜国際女子マラソン大会	2014年 11月16日 (日) 開催
・第34回大阪国際女子マラソン大会	2015年 1月25日 (日) 開催
・名古屋ウィメンズマラソン2015	2015年 3月 8日 (日) 開催

〈男子競歩〉

・第53回全日本50km競歩高皇大会	2014年 10月26日 (日) 開催
・第98回日本陸上競技選手権大会・20km競歩	2015年 2月15日 (日) 開催
・第39回全日本競歩能美大会	2015年 3月15日 (日) 開催
・第99回日本陸上競技選手権大会50km競歩	2015年 4月19日 (日) 開催

〈女子競歩〉

・第98回日本陸上競技選手権大会・20km競歩	2015年 2月15日 (日) 開催
・第39回全日本競歩能美大会	2015年 3月15日 (日) 開催

◆◆日本選手権リレー・ジュニアオリンピックの動画を公開します！◆◆

10月31日(金)から11月2日(日)まで、神奈川・日産スタジアムで開催する第98回日本陸上競技選手権リレー競技大会、第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会の動画を昨年に引き続き公開致します。激戦の様様をもう一度、お楽しみ下さい。

アクセスは <http://japanathletics.tv/> まで

※ 6月6日(金)～8日(日)に福島・とうほう・みんなのスタジアムで開催しました第98回日本陸上競技選手権大会の動画は好評公開中です！



昨年のジュニアオリンピックの様子

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
三宅 勝次 (陸連副会長)
友永 義治 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
原田 康弘 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

森 泰夫
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
本田香代子
森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>